

Ⅱ 習志野市の概況

Ⅱ－１ 習志野市の沿革と概況

（１）習志野市の沿革【～軍郷から文教住宅都市へ～】

本市は、昭和 29(1954)年 8 月 1 日、津田沼町を母体に千葉県内で 16 番目に市制を施行し、人口 30,204 人、面積 17.66 ㎢を有する都市として誕生しました。

本市は、それまで軍郷として知られてきましたが、戦後、旧軍用地の転用が進み、大学等の教育施設や商工業施設、住宅街が形成され、文教住宅都市への転換が図られました。

その後、昭和 40 年代から 50 年代(1965 年から 1984 年)にかけては、我が国の高度経済成長と首都圏の人口急増等を背景に、JR 総武線の複々線化、2 度の公有水面埋立による市域の拡大やそれらに伴う住宅団地開発が行われるなか、学校・幼稚園や社会福祉施設等の公共施設の整備を実施する等、教育・福祉及び文化の振興や住環境の保全等に力を注ぐとともに、昭和 45(1970)年 3 月 30 日には「習志野市文教住宅都市憲章」を制定しました。

昭和 60(1985)年代以降は、JR 京葉線の開業等によって、急速に市街化が進展し、住宅都市として発展するなかで、都市計画道路や公園、下水道といった都市基盤に重点を置いた整備を進め、更には習志野緑地の整備、谷津干潟のラムサール条約への登録をはじめとする都市基盤の充実、環境の保全等に努めてきました。



（２）土地利用状況【～小さいながら高効率で居住環境の良好なまち～】

本市は、市域面積 20.97 ㎢と県内自治体で 4 番目に小さな面積となっています。

昭和 30(1955)年代後半より、住宅地域、農業地域、工業地域を明確に区分した良好な居住環境を持つ都市としてまちづくりを進めてきました。

現在、本市は全域が都市計画区域に指定されており、市街化区域は 18.62 ㎢で市域の 88.8%、市街化調整区域は 2.35 ㎢で市域の 11.2%を占めています。

（３）地理的特性【～交通網が発達し利便性に優れたまち～】

① 都市に係る状況

本市は、東京湾に面した千葉県北西部に位置し、千葉市・船橋市・八千代市に隣接しています。

面積 20.97 ㎢、常住人口 173,111 人、人口密度 8255.2 人/㎢であり、千葉県内で3番目に高い人口密度となっています（平成 31 年 1 月 1 日現在）。

東部から中部地区にかけては、騎兵旅団司令部があった大久保地区を中心に、明治から昭和にかけて発展し、人口が集中した地域でありました。戦後の軍解体に伴って生まれた、広大な跡地は大学や工業系企業等の敷地として活用されています。

中部地区には、最も古くから集落がある鷺沼・鷺沼台・藤崎地区をはじめ、JR 総武線や京成線等の主要交通機関が集中する津田沼地区があり、昭和 30(1955)年代まで海岸線があった国道 14 号沿いを南端に、本市の中核を担ってきた地域でもあります。

西部地区には、ラムサール条約に登録されている谷津干潟があります。また、東京湾岸は国道 14 号以南の埋立地域で構成されており、なかでも JR 京葉線以南である芝園、茜浜地区は、居住エリアとの明確な分断のための土地利用がなされており、工業・流通エリアとして、本市の産業地域となっています。

② 交通に係る状況

本市は、主要交通である鉄道が市内中心部を横断し、5 路線 7 駅が設置され、市内どの地域からも約 2 kmで駅へ行くことができ、鉄道へのアクセスは大変優れています。

また、京葉道路・東関東自動車道の高速道路、国道 14 号・国道 357 号の国道等、数多くの道路が設置され、充実した交通網が発達しています。更には、新たに谷津船橋インターチェンジが平成 25(2013)年に完成し、周辺地域の混雑緩和や利便性が向上しています。

この充実した交通網により、都心まで約 30 分、成田空港まで約 40 分と交通至便な地域となっています。

③ 地理に係る状況

本市の海拔平均は 18m であり、台地、段丘斜面、谷戸地、海岸平野と、変化のある自然地形が形成されています。北部の下総台地から、かつて旧海岸線があった国道 14 号沿いには海岸段丘の名残があるものの、全体としては南部の現海岸線に向けて、緩やかな傾斜をなしています。